

アセットマネジメント部門

応募事例名

東京都流域下水道への立川市単独処理区の編入事業

応募団体名)東京都下水道局、立川市

応募事例の概要

○ 立川市が単独で処理する区域の下水(約57,000m³/日)を東京都流域下水道へ編入しました。

応募事例の内容

立川市錦町下水処理場の課題

- 供用開始から50年以上が経過し、老朽化が進行
- 敷地が狭く、施設の更新や高度処理の導入が困難
- 施設の耐震性能が確保されていない

下水道事業運営の効率化に加え、水環境の向上や危機管理体制の強化を目的に **東京都流域下水道へ編入**

- 都は下水の受け入れに必要な施設として、北多摩二号水再生センターにポンプ棟、特高受変電施設、污泥処理施設を整備
- 立川市は送水に必要な施設として、錦町下水処理場に送水施設及び流入きよ、北多摩二号水再生センターまでの接続幹線を整備

編入事業概略図



水再生センターポンプ棟

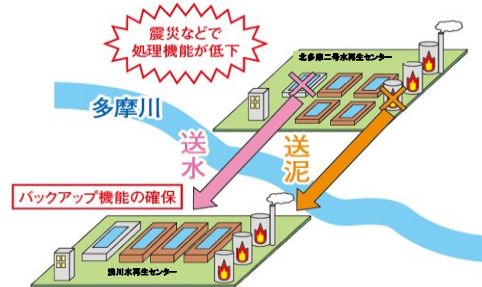


接続幹線(シールド)



PRポイント

- ①都の流域下水道のスケールメリットを活かし、施設の**更新費や維持管理費を縮減**
- ②高度処理(準高度処理を含む)が導入された北多摩二号水再生センターで処理することで、**水質改善と良好な水環境を創出**(高度処理導入割合:北多摩二号水再生センター**100%**)
- ③北多摩二号水再生センターと対岸の水再生センターをつなぐ連絡管を活用し、汚水、污泥等の相互融通により震災時等の**バックアップ機能を確保**



連絡管によるバックアップ機能のイメージ

取組みに関するエピソード



東京都 下水道局
流域下水道本部技術部
市町村下水道担当課長
持田 智彦

平成24年度に都と立川市が編入に関する基本協定を締結し、平成29年度に工事着手、令和5年度末に編入を行うことができました。都と立川市の多くの関係者に感謝申し上げるとともに、今後も効率的な事業運営と水質向上に連携して取り組んでまいります。

この度の流域編入事業により、本市が長年課題としていました下水処理場の老朽化及び処理水質の改善等が解決されたことにつきまして、東京都下水道局をはじめ、編入事業にご尽力いただきました方々へ感謝申し上げます。今後も安定した施設の運営に努めてまいります。



立川市 環境資源循環部
下水道工務課長(前)
尾崎 正博